

2026年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧<リハビリテーション学科言語聴覚学専攻>

科目	単位数	実務経験のある教員による授業科目
基礎ゼミナールⅢ (ST)	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（大塚：31年、松尾：20年、不破：18年、木下：5年）を有する教員が、医療従事者の視点をふまえ、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
基礎ゼミナールⅣ (ST)	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（勝田：22年、工藤：21年、松尾：20年 木下：5年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
社会学	2	医療機関で社会福祉士・精神保健福祉士として13年、厚生労働省で相談支援専門官として2年業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、社会学に関連する知識や視点等についての授業を行う。
経済学	2	NPOや一般企業での勤務経験、また現在、市民セクターと企業セクターの協働の実践の構築の経験が10年ある。それらの実務経験を活かして、社会福祉の学びが一般企業においてどのように生かされるのかを実践の紹介を交えて講義をおこなう。
日本史と世界	2	国公立小学校教諭（21年）、大阪府教育センター社会科担当指導主事（6年）を経験した。
保健体育 (B)	2	小学校（小中一貫校も含む）で教諭、教頭、校長（29年間）として、小学校教育に関わった経験があり、学校や子どもたちの実態を踏まえた具体的授業を展開する。
体育実技 (D)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
体育実技 (E)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
体育実技 (F)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
医療英語Ⅰ（医学英単語）(ST)	1	言語聴覚障害に関わる基礎・臨床の研究及び実務経験を10年以上有する教員（言語聴覚士の臨床経験：21年、13年）により、臨床現場や研究において使用される英単語について講義する。
オーラルコミュニケーション	2	兵庫県内の公立と私立の中学校・中等教育学校・高等学校において、教諭および主幹教諭として通算40年以上業務に従事した経験がある。この授業では、その実務経験を活かして、実践的な英語力を修得するための授業を行う。
総合教養	2	（福祉栄養学科 伯井朋子）保健所や健康増進施設等で30年公衆栄養業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして「栄養と健康」についての授業を行う。 （リハビリテーション学科 重森健太）地域理学療法分野で25年。
医療キャリアデザイン③ (ST)	1	実務経験あり：病院において言語聴覚士として業務に従事した経験（勝田22年、木下5年）、またキャリアサポートの実務経験あり。その実務経験を活かして、言語聴覚士に必要な知識、社会人基礎力、基本的な学びの態度、キャリア形成についての授業を行う。
臨床心理学	2	小学校・中学校・高等学校・専門学校でスクールカウンセラー（学生相談員）として16年、教育相談・学生相談を経験した。 児童自立生活援助事業で児童福祉司・心理主任として6年、相談支援及び生活支援を経験した。 小児科・精神科で非常勤の臨床心理技術者として10年以上、相談支援を経験した。 児童育成支援拠点事業・ひきこもりサポート事業・児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・障害児者相談支援事業所を運営する理事長及び支援者として10年、管理業務及び相談支援を経験した。 障害者の自立訓練事業・就労移行支援事業の顧問及び臨床心理士として、11年、相談支援を経験した。 地域若者サポートステーション・若者総合相談窓口のスーパーバイザー及び臨床心理士として5年、相談支援を経験した。 関西電力送配電（株）和歌山支社でメンタルヘルススーパーバイザーとして9年、ラインケア研修や従業員の相談支援、カウンセラーへのスーパービジョンを経験した。
内科学・生活習慣病	2	実務経験あり：医療機関において医師として長年業務に従事しており、その実務経験を活かして内科学・生活習慣病についての授業を行う。
神経内科学	1	実務経験あり：医療機関において医師として長年業務に従事しており、その実務経験を活かして神経内科学についての授業を行う。
救急医療	1	担当者は医療施設等において、医師として、作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。
リハビリテーション概論	2	実務経験あり（26年）：病院、施設、まちづくり事業において理学療法士として従事した経験があり、その実務経験を生かしてリハビリテーション概論についての授業を行う。
薬理学 (リ)	2	実務経験あり：医療機関において医師として長年業務に従事しており、その実務経験を活かして薬理学についての授業を行う。
音声・言語・聴覚医学	2	実務経験あり：病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚や音声・言語についての授業を行う。 大塚：臨床経験31年（言語聴覚士）、辰巳：臨床経験13年（言語聴覚士）
発達心理学 (リ)	2	言語聴覚士（経験年数21年）・公認心理師国家資格および臨床発達心理士資格と臨床実務経験を有する教員が、基礎的な知識を特別なニーズを持つ子どもや家族への援助に応用できるように、臨床事例も交えながら講義する。
言語学・音声学Ⅰ	2	病院やクリニック、放課後デイサービス等で言語聴覚士として臨床業務を経験した教員（大塚：31年、岡田：16年）が担当する。
言語学・音声学Ⅱ	2	病院やクリニック、放課後デイサービス等で言語聴覚士として臨床業務を経験した教員（大塚：31年、岡田：16年）が担当する。

科目	単位数	実務経験のある教員による授業科目
音響学	2	病院で言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、臨床に関わる音響学の知識についての授業を行う。
病理学	1	この科目の担当教員は実務経験者である。
言語聴覚障害基礎セミナー	1	病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験が18年(不破)・5年(木下)ある教員がその実務経験を活かし言語聴覚士の業務領域や医療人に必要なマナー、礼節についての授業を行う。
言語聴覚障害演習	1	実務経験あり：言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（大塚：31年、勝田：22年、工藤：21年）、これまで学修してきた知識や技能の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。
失語・高次脳機能障害学概論Ⅰ	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（実務経験13年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
失語・高次脳機能障害学概論Ⅱ	2	言語聴覚士免許と臨床の経験（22年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
失語症学演習	1	言語聴覚療法の実務経験を有する教員（実務経験13年）が、これまで学修してきた内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
成人言語障害学演習Ⅱ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（22年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
成人言語障害学演習Ⅲ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（勝田22年、辰巳13年、木下5年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
成人言語障害学演習Ⅳ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（実務経験13年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語発達障害学Ⅰ	2	言語聴覚士国家資格を有し、言語発達障害領域での実務経験（工藤：21年、不破：18年）を有する教員が講義を担当する。
言語発達障害学演習Ⅱ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（工藤：21年、不破：18年、吉田：24年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
発声発語・摂食嚥下障害学Ⅳ	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を20年有する教員が、嚥下障害分野の知識や技能について講義する。
発声発語・摂食嚥下障害学演習Ⅰ	2	病院勤務において言語聴覚士として業務に20年（松尾）・31年（大塚）従事した経験があり、その実務経験を活かして発声発語器官の運動障害の評価と訓練についての授業を行う。
発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ	1	各教員が病院において言語聴覚士として業務に20年、5年それぞれ従事した経験があり、その実務経験を活かして、言語聴覚士に必要な知識、臨床や実習において必要になる基本的な技能についての授業を行う。
聴覚障害学演習Ⅰ	2	・病院において言語聴覚士として16年、業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、各聴覚検査や聴覚障害者の実際についての授業を行う。（福田信二郎） ・言語聴覚士として医療機関等で実務経験を有する教員（工藤：21年、木下：5年）が、その実務経験を活かして演習を行う。
聴覚障害学演習Ⅱ	2	病院において言語聴覚士として16年、業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、各種聴覚検査についての授業を行う。
失語・高次脳機能障害学特論	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（実務経験22年、13年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
発声発語・嚥下障害学特論	2	各教員は言語聴覚士免許と臨床の実務経験があり（大塚31年、木下5年）、その経験を活かして摂食嚥下障害領域の知識や技能について総まとめと最新の知見を含めて講義する。
聴覚障害学特論	2	病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、聴覚障害全般についての授業を行う（経験年数 冬野：10年、木下：5年）
言語発達障害学特論	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（工藤:21年、不破:18年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ	1	各教員が病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり（大塚31年、木下5年）、その実務経験を活かして、言語聴覚士に必要な知識、臨床や実習において必要になる基本的な技能についての授業を行う。
地域言語聴覚療法学	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（実務経験22年、18年、13年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
臨床実習Ⅰ	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（勝田：22年、工藤：21年、木下：5年、大塚31年、不破：18年、松尾20年、辰巳13年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。
多文化と共生	1	担当者（永井）は医療施設・福祉施設等において作業療法士および部門管理者として30年以上業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本講義を行う。 担当者（内海）は学校現場において栄養教諭として業務に13年間従事した経験があり、その実務経験を活かして本講義を行う。
栄養学（リ）	1	リハビリに取り組むアスリートに対する栄養教育経験のある管理栄養士である教員が、その実務経験を活かして栄養学についての授業を行う。

科目	単位数	実務経験のある教員による授業科目
老人福祉論	1	1983年社会福祉学科卒業後、大阪府枚方市の社会福祉法人聖徳園に入職。在宅介護高齢者のデイサービスセンターに配属され3年間、知的障害児通所更生施設に配属され1年間、再び同デイサービスセンターに配属され、在宅介護支援センターソーシャルワーカー、デイケアセンターソーシャルワーカー（生活相談員）を担当する。その後、同法人内で、24時間ホームヘルプステーション、訪問看護ステーション、介護員2級ヘルパー事業、認知症グループホーム、地域包括支援センター等の立ち上げ、枚方市の医療ソーシャルワーカーと連携しながら、在宅の医療依存度の高い利用者の支援を行ってきた。 1) 在宅高齢者デイサービスセンター介護業務 昭和60年4月 デイサービスセンターを中心として、入浴介助、移動介助、着替え等の介護業務を行ってきた。 2) 枚方市24時間地域高齢者ホームヘルプ事業への取り組み 平成6年 4月 全国的にも珍しかった枚方市における24時間ホームヘルプサービス実施の3つの委託先の1つとして現場の立ち上げに尽力した。深夜時間帯はホームヘルプステーションへの宿直体制で緊急ホームヘルプのニーズに対応できる体制を整備した、6年間 3) 地域高齢者訪問看護ステーションの事業立ち上げ 平成11年 12月 枚方市内で2ヶ所目（民間法人としてははじめ）なる訪問看護ステーションの指定申請や現場の体制整備に取り組んだ。 4) ホームヘルパー養成講座2級課程の開始 平成11年 12月 介護職の人材養成教育として、ホームヘルパー2級課程の開講を担当した。定員40名で年2回の実施。現在までに約500人の修了生を輩出した。 5) 認知症高齢者地域グループホームの立ち上げ 平成12年8月 認知症対応型共同生活介護（定員7名）の指定申請や管理者（3年間）を担当した。 6) 居宅介護支援事業の運営管理 平成12年4月 居宅介護支援事業の運営を管理者として担当した。6年間 7) ISO9001の法人責任者 平成16年6月 サービスの品質に関する国際標準規格であるISO9001の法人全体の責任者（14業種33施設）を担当した
失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（22年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
小児科学	1	小児科医師 小児科専門医として臨床経験豊富
医療安全・感染症学	1	医療機関において内科医師として診療に従事しており、その経験を活かして実践的な医療安全学や感染症学についての授業を行う。
リハビリテーション医学	1	医療機関におけるリハビリテーションの実務経験を有する教員が、臨床場面での知識の活用や実用的な訓練法を含めて講義する。 全教員は、10年以上の実務経験を有する。
画像診断学	1	実務経験あり：医療機関において医師として長年業務に従事しており、その実務経験を活かして画像診断学についての授業を行う。
医学総論	1	医師として長年臨床に携わってきた経験があり、実務経験を活かして医学総論についての授業を行う。
耳鼻咽喉科学	1	実務経験あり：医療機関において医師として長年業務に従事しており、その実務経験を活かして耳鼻咽喉科についての授業を行う。
言語発達学①	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（17年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語発達学②	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（17年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語聴覚障害概論Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（不破：18年、木下：5年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語聴覚障害概論Ⅱ	1	実務経験あり：言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（工藤21年、木下5年）が、これまで学修してきた知識や技能の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。
拡大・代替コミュニケーション特論	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（木下：4年、不破：17年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語発達障害学演習Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（工藤21年、不破18年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
発声発語・摂食嚥下障害学Ⅰ	1	病院や放課後デイサービス等で言語聴覚士として臨床業務を経験した教員（大塚：31年）が担当する。
発声発語・摂食嚥下障害学Ⅱ	1	病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験が20年あり、その実務経験を活かして構音障害の評価や訓練の実践についての授業を行う。
発声発語・嚥下障害学Ⅴ	1	回復期リハビリ病院（福岡県）ならびに医科大学附属病院（岡山県）において30年以上、言語聴覚士として吃音の治療に従事した経験をもち、現在も従事している（福永真哉）。この実務経験を活かして吃音の評価と訓練についての授業を行う。
聴覚障害学Ⅰ	1	病院の耳鼻咽喉科で言語聴覚士として16年、業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚障害、聴覚検査、聴覚補償機器などについての授業を行う。
聴覚障害学Ⅱ	1	病院の耳鼻咽喉科で言語聴覚士として16年、業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚障害者や聴覚補償機器などについての授業を行う。
言語聴覚障害学総論Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（大塚：31年、辰巳：13年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。

科目	単位数	実務経験のある教員による授業科目
言語聴覚障害学総論Ⅱ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（工藤：21年、松尾：20年、勝田：22年、不破：18年、木下：5年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
臨床実習基礎Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（松尾：20年、勝田：22年、工藤：21年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
臨床実習基礎Ⅱ	1	本科目は、言語聴覚士として臨床経験を有する教員（勝田：22年、工藤：21年、木下：5年、松尾：20年、不破：18年、辰巳：13年、大塚：31年）が担当する。
卒業研究（ST）	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（大塚：31年、勝田：22年、工藤：21年、松尾：20年、不破：18年）が、専門的な観点から指導、助言を行う。
臨床実習Ⅰ（旧カリ）	6	言語聴覚士免許と臨床の実務経験（大塚：31年、勝田：22年、工藤：21年、松尾：20年、不破：18年、辰巳：13年、木下：5年）を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。
臨床実習Ⅱ	7	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（大塚：31年、勝田：22年、工藤：21年、松尾：20年、不破：18年、辰巳：13年、木下：5年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。

計 117